

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙



- ①流しても流し足りない 7めのぬと
- ②シヤボ泣き悲しみ飛ばします 笑顔
- ③震災に身と心まで病になり
- ④ユツコツとどん底にいても ありえど
- ⑤こころとともていさやがゆ
- ⑥命さへおぼも 一度 がんばれる
- ⑦友比喩「しかりせよと」かにする
- ⑧がれきから ひまわりの花ほほえん
- ⑨ 7月17日 生きてる 47歳 ますもり
- ⑩しかりわらにも かりだも いまきと
- ⑪ころころと 七色の 変化七色に
- ⑫花さても 散らすに 咲くほほえむ
- ⑬よしやるぞ 立ち上がりには 時をかえ
- ⑭命の火 鐘と 息と 風水日
- ⑮走馬灯 十年前は 震えてた
- ⑯酔うほど 浮世の 悲しみ ずいしと
- ⑰SON 友の胸が 立ち上がる
- ⑱天笑よ 何故に 二人は 一緒に
- ⑲いっげ いっほ はじめの 一歩に 願ひ
- ⑳ ねおに かりかり 泣いてます

10年前 振り返り

ふりがな お名前	萩尾 敏子	年齢	57 才
ご住所	兵庫 (都道府県)	津 名	市・郡

ひょうごメモリアルウォーク 2005 に
参加申込み頂いた方からのメッセージです。

「1.17メッセージ」応募用紙

いつまでも体が熱くなる自分でいたいーあの日のことを思い出すときはいつでも

(お名前) 安部 健志 (アベ タケン)

(年 齢) 37 歳

(ご住所) 兵庫県津名郡

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

地球への畏れを忘れず
私達は仲間意識と
助け合いの心を常に育てましょう

ふりがな お名前	松田朋子	年齢	70才
ご住所	兵庫	都道府県	津名
		市・郡	

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

阪神・淡路大震災発生から、早や10年、私の心の中では昨日のこの日に明確に思い出されます。私の周囲の家は全部倒壊しましたが、幸にも私の家は崩壊をまぬがれました。しかし壁は落し、家具道具は散乱し、家の中は手の付けようなく、どうすればよいかたいほう然とするばかりでした。水道管は破裂し、家の中は水びたし。断水のためバケツを持ち役場まで行き、寒風の中で並んで水をもらいました。トイレ入浴も洗濯も思う存分に出来ず、不自由な生活を強いられました。そんな苦しい生活の中で私に勇気をはけてくれたのは、地域の人々の温い言葉と支援でした。田舎の人間的なつながりと助け合いが大切であると痛感し、精神的・肉体的にも極度の疲れの中で、ボランティアの方々の支援のおかげで、どれだけ助けられ、励まされ、がんばってこられたことか、私も今70才ですが、私なりに出来るボランティアをがんばってしていこうと思っています。

助け合う心、励まし合う心、人の苦しみを感じる心の大切さと身をもつて知り、これからの心を大きく育てる存心でがんばって行きたいと思っています。

ふりがな お名前	み ゆき と し こ 御 幸 と し こ	年 齢	70才
ご住所	兵庫 都道府県	津 名	市・郡

「1.17メッセージ」応募用紙

震災10周年を迎えて「私のメッセージ」

阪神・淡路大震災では、私の町東浦町でも大きな被害を受けました。大きな地震の揺れで、建築物の家屋は倒壊等の被害を受け、道路、田んぼ、火田、漁港等は陥没やひび割れを引き起こしました。多くの人は家屋が倒壊して仮設住宅等での生活を余儀無くされました。地震の被害で生活に必要な水道は断水し、ライフラインにも大きな被害を受けました。この様に私達の町の東浦町が地震の被害に遭い大変困っている時に、全国の皆様がボランティア活動や義援金、救援物資等の心温かな支援をして頂き誠に有り難う御座いました。心から感謝致しております。今後私達は阪神・淡路大震災の経験から防災に関する知識や技術を身につけ防災に強い町づくりをめざしていけたらいいと思います。全国の皆様、御支援誠に有り難う御座いました。心から御礼申し上げます。

ありがとうございます お名前	あいだ かみさ 相田 勝久	年齢	32 才
ご住所	兵庫県 津名	市・区	

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

淡路大震災をもちに受けました、
 10年前、年令も身にせず、おまじらに板片が1712
 層おきました。主人もクハに死亡し、お水とお痛み
 を受けました。この10年間、あつと云ふ、何と
 家も建て、又16年10月の浸水は床土と40cm
 長くて短い人生の色々と苦勞するかと
 下げきたくありませんかー、心と氣持を取り戻して
 頑張りたいです。おまじら役所の方にも
 大変だと思ひます。先にも一層、励みたく
 あります。

ふりがな お名前	天野弘子	年齢	76 才
ご住所	兵庫 都道府県 津名郡		市・郡

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

【絵島の夜明け】



阪神・淡路大震災
「メモリアル・フォト」より

悪夢の日から早一年
 私たちのふるさと「あわじ」は
 まだその傷口を癒やせない
 佐む家がなくなり
 働くところを失った
 晴いばかりの現実の影が
 私たちに
 大きいかぶさっている
 悔しいばかりの一年
 辛く苦しただけの一年
 だけと。。。

長い時間が続いたあとには
 必ず夜明けがやってくる
 強い意志と優しい心が
 ありさえすれば
 今まで以上に素晴らしい
 ふるさと「あわじ」が見えてくる
 負けるな、頑張れ、弱者を吐くな
 夜明けは必ずやってくる

平成7年1月17日

阪神・淡路大震災記録写真集

発刊/平成8年3月
発行/淡路町

ふりがな お名前	なかの 中野 覚	年齢	50才
ご住所	兵庫 都道府県	津名	市・郡

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

水がない

1 岩屋では 町を出て行く者が 揃えている
 Am G F E7
 Am G F E7
 今朝来た 広瀬あおじの 片腕に掛っていた
 Am G F E7
 だけでも 問題は今日の雨 水がない
 Am G
 行かなくちゃ パルプ間に行かなくちゃ
 F E7
 岩の町に行かなくちゃ 汗にまみれ
 Dm C Dm C
 暑い汗が 今日心に染みる 水のこと意外は 考えられなくなる
 Dm Bm7 E7
 それは いいことだろう

2 踏会では 我が町の将来の 問題を
 Am G F E7
 Am G F E7
 誰かが 深刻な顔をして シヤべってる
 Am G F E7
 だけでも 問題は今日の雨 水がない
 Am G
 行かなくちゃ 水もらいに行かなくちゃ
 F E7
 北浜町まで行かなくちゃ タンクローリーで
 Am G
 行かなくちゃ 水もらいに行かなくちゃ
 F E7
 北浜町まで行かなくちゃ タンクローリーで

オリジナルソング
 「震災後10年の歩み」より

淡路町は従来河川の表流水を
 飲料水としていましたが、震災後
 雨が少なくて河川から水が消えました。
 溜池も底が割れ大乾水となり、
 断水が長く続きました。

当時、私は震災がレキの皇の像を
 していましたが、レキの皇を
 時としたので、急遽、「水道課」に
 配属されました。

その時の苦労話を歌にしたのが

ふりがな お名前	あかの 中野	まさる 覚	年齢	50才
ご住所	兵庫 都道府県 津名 市(郡)			

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

私の震災カルテ

Am Am (G) F
 1 平成7年1月17日 夜明け前に～
 G Am
 いままでなかった 歴史に残る 火きな地震が
 Am Am (G) F
 俺のまらをおそいかかる しゅんかんに～
 G Am
 夢をみてたら あわててとびおき わかいを見れば
 Dm Am G C
 神戸の街では 赤い炎と煙のうずで
 Bb Am F G Am
 夢で あってくれと ニラコラリ～

Am Am (G) F
 2 まらに出れば ガレキの山で 足の踏み場なく
 C Am
 想像絶する 自然の猛威に おどろくことばかり
 Am Am (G) F
 こんなにこわれた この町中を 復元せよと～
 C Am
 上司の命令 もらったけれども ため息でるばかり
 Dm Am G C
 余震のおびえと 救世物質の風かさ
 Bb Am F G Am
 原い 黙めに ホロホロリ

Am Am (G) F
 3 胸いっぱい 時代の風を吸い込むころがある～
 C Am
 健康管理と こころのケアも 右難がっていた
 Am Am (G) F
 いくつになっても 未熟な自分を いとしく思ってる
 G Am
 そんな大人が 幼いわが子に 道を説いている
 Dm Am G C
 誰かにもらった 自由を築う事はなく
 Bb Am F G Am
 知らず 知らずうち ホロホロリ

Am Am (G) F
 4 情に流せば 弱気な態度と はたかなじられて
 C Am
 腹からどなると、変わり者だと ひなんされる
 Am Am (G) F
 頭を下げれば その場はなんとか しのげるが
 G Am
 見てみぬ振りすりゃ 自分がなんだか みじめになってくる
 Dm Am G C
 他人の視線と 自分の評価にうるたえりゃ
 Bb Am F G Am
 事は 柳さえ ニラユブリ

オリジナルアルバム

「震災後10年の歩み」より

震災当時私は、建設課に所属してありましたが、震災カルキスピアの任務を
 本任行するにあたり、「保健課プロジェクト」に入事異動がありました。
 その時の思いを歌で綴ったものです。

ありがな お名前	あかの 中野	いさ 寛	年齢	50才
ご住所	矢野	都道府県	津名	市郡

「 1 . 1 7 メ ッ セ ー ジ 」 応 募 用 紙

単身赴任の住居であった淡路島の岩屋で震災にあいました。

幸い大きな被害は受けませんでした。すぐに起き、勤め先の明石に向いました。明石海峡が黄色に濁り、神戸の町から数本の煙が立ち昇る光景は今も私の脳裏に焼きついています。

あれから 10 年、以前よりも美しくなった町並みを見ながらも、掛け替えのないものを失った傷みを抱きながら、頑張ってきた被災者の方々に敬意を払っています。

10 年一昔と言われますが、災害の怖さや備えを忘れないように伝えて行きたい。

(お名前) 佐野 惇

(年 齢) 60 歳

(ご住所) 三原郡